科目名	与薬に伴う援助技術	対象学年・時期	2年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	ディプロマポリシー　3　に基づく。看護師は医師の指示に基づき診療に伴う検査・治療・処置の一部の実施や、看護援助を行う。診療の場面では侵襲を伴うものが多く、対象の心身に苦痛を与えるものも少なくない。また、看護師の活動の場が病院から地域へと多様な場に広がることで、看護師には医療職者として健康状態の解釈や適切な判断・行動が求められる。そのため、科学的根拠に基づき対象者へ安全・安楽・的確(正確)に実施することの重要性と実施するための基礎的な知識・技術・態度を学ぶことは不可欠である。ここでは、治療や処置の際に看護師が関わることの多い与薬に伴う看護援助について、実施できるための知識・技術・態度を学ぶ。		
講義形態	講義、演習		
学習目標	1. 与薬に伴う援助の必要性と原理・原則に基づく正確で確実な看護技術について理解できる。 2. 与薬に伴う看護技術を原理・原則に基づいて正確・確実に実施できる。 3. 与薬を受ける患者の心理を理解し、患者の受ける苦痛とプライバシーに配慮することができる。		
学習内容 (授業計画)	1回目　与薬時の基礎知識①　看護者の役割と責任 2回目　与薬時の基礎知識②　薬剤管理(麻薬管理含む) 3回目　与薬の実際 4回目　バイアル・アンプルの取り扱い方・使用機材の管理 5回目　筋肉注射演習① 6回目　筋肉注射演習② 7回目　筋肉注射演習③ 8回目　皮下注射 9回目　皮内注射 10回目　静脈内注射 11回目　点滴静脈内注射と管理　＊実施の技術チェック 12回目　中心静脈栄養実施時の介助・管理、輸液管理 13回目　輸液ポンプ、シリンジポンプ操作 14回目　与薬時の看護者の役割と責任 15回目　終講試験		
使用テキスト	系統看護学講座－専門分野　基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅱ 系統関学講座－専門基礎分野　人体の構造と機能（1）解剖生理学 系統看護学講座－専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進（3）薬理学		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	事前学習・・・各注射法の種類と関連事項（解剖の部位、方法、留意点、使用する機材等）および技術習得のための自己練習 既習の知識の振り返り・・・無菌操作／感染対策／侵襲を受けることの対象にとっての意義／事故防止		
評価基準と 評価方法	筆記試験 教員2名で講義を担当する為１人50%ずつ配点とする。		
備考			